

性格別研究費の把握方法について

総務省統計局経済統計課

現行の調査は、自然科学分野に限定して性格別研究費を把握しているが、サービス統計・企業統計部会審議において指摘を受けたこと及び科学技術基本法(平成7年法律第130号)の改正¹により法律の振興対象に人文科学に係る科学技術が追加されることから、人文・社会科学分野に関する性格別研究費の把握方法について検討する。

なお、フラスカティ・マニュアルでは、性格別研究費の把握に関し、特定の分野に限定して把握する記載にはなっていない²。また、主要国の性格別研究費は、人文・社会科学分野も含まれたもの³となっている。

1 定義について

人文・社会科学分野を性格別研究費の把握対象に加えても、基礎研究、応用研究及び開発研究の基本的な定義は変わらない。一方、調査書類に記載している定義は、一部、自然科学分野に特化した内容となっていることから、人文・社会科学分野のアウトプットイメージを追記する。

(1) 調査票

基礎研究	特別な応用、用途を直接に考慮することなく、仮説や理論を形成するため又は現象や観察可能な事実に関して新しい知識を得るために行われる理論的又は実験的研究をいいます。
応用研究	特定の目標を定めて実用化の可能性を確かめる研究や、既に実用化されている方法に関して新たな応用方法を探索する研究をいいます。
開発研究	基礎研究、応用研究及び実際の経験から得た知識を活用し、付加的な知識を創出して、新しい製品、サービス、システム、装置、材料、工程【、仕組み、計画】等の創出又は既存のこれらのものの改良をねらいとする研究をいいます。

注1) マーカ一部は、自然科学分野に特化した記述

注2) 【 】内は追記文章案

¹ 2021年4月1日施行、名称も「科学技術・イノベーション基本法」に改称される。

² 2002年版のマニュアルでは、段落番号238において、「人文・社会科学よりも自然科学に適用するほうが容易(It is usually more easily applied to R&D in the natural sciences and engineering (NSE) than in the social sciences and humanities (SSH).)」との記載があったことから、自然科学分野に限定した把握も容認されていたものと考えられる。

³ OECDのデータベースにおいて、各国のR&D統計に関するメタデータを確認したところ、人文・社会科学分野を除く旨の記載は確認されなかった。

(2) 調査票記入上の注意

基礎研究	自然界【及び人類社会】に存在する科学的な事実(理論, 法則, 物質, 属性, 性質, 現象など)を発見・立証する研究です。その研究成果は「もとから存在するもの」なので, 通常は研究成果の排他的な利用権を主張することはできません(研究成果を他者に公開することは拒否できても, 他者が自らそれを発見し, 利用することを妨げることはできません。)。そのため, 基礎研究の成果は一般に学術論文の形で発表されます。
応用研究	知られている科学的な事実(この場合は経験則を含む。)を, 目的とする用途の役に立つかどうか調べる研究, あるいは既に何かに利用されているものを, 別の用途に役立てられないか調べる研究です。「役立つように工夫する」ことも応用研究です。「科学的事実の利用方法」についての研究なので, その成果には一般に排他的な利用権(特許など)が認められます。
開発研究	目的の用途に利用できることが確認できた科学的な事実を活用し, 付加的な知識を創出して, 実社会で実際に利用可能な形(製品, サービス, システム, 装置, 材料, 工程, 薬品など)にする研究です。実社会で利用するために, 社会的規制の必要から行われる研究(品質, 安全性や経済性の確保など)も含まれます。 【人文・社会科学分野においては, 研究を通じて得られた知識を活用し, 社会的要請に応えるための形(運用モデルやプログラム, 試験及び評価のために行われる実証プロジェクトなど)にする研究が該当します。】※FM2002 より

注 1) マーカ一部は、自然科学分野に特化した記述

注 2) 【 】内は追記文章案

2 把握方法について

科学技術基本法改正やフラスカティ・マニュアルを踏まえると、自然科学分野及び人文・社会科学分野を合わせた総額ベースで把握すべきと考えられる。一方、この調査は、1965年(昭和45年)調査から自然科学分野として把握⁴していた。今後は、従来のような自然科学分野というよりは、文理融合型の研究が拡大していくものと考えられるが、当面の間、時系列結果への影響を考慮し、従来ベースでの表章も可能とした把握方法を検討する。

調査票案としては、大学等とそれ以外に分けて設計し、ヒアリングを行って記入可能性を判断する。

⁴ 1965年から1973年調査までは、企業部門及び研究機関において性格別研究費を把握。大学等で性格別研究費を把握するようになったのは1974年調査から。なお、企業においては、2001年調査までは、自然科学分野に限定せず、社内使用研究費の総額ベースで回答を求めている。また、研究機関及び大学等においては、1976年調査までは、理工学及び農学と医学に分け、理工学及び農学は現在と同じ3区分、医学については、基礎医学と臨床医学の2区分で回答を求めている。

ア 企業及び非営利団体・公的機関用:「総額」と「うち自然科学分野」の性格別研究費を把握

2018年度の研究費総額に占める自然科学分野の割合は企業で99.8%、非営利団体・公的機関で95.4%であり、「総額＝自然科学分野」の客体が多数と考えられる。そのため、総額を把握し、内数の自然科学分野が総額と同額の場合のチェック欄を設けることで、記入上の負担軽減を図る。

【●】性格別研究費

○ 「【●】社内（内部）で使用した研究費」について、研究費の「総額」及び「うち自然科学分野」の研究費を、それぞれの性格によって分類して記入してください。分類単位は原則として研究テーマごとに行いますが、それが困難な場合には、研究者又は研究室ごとに分類しても差し支えありません。

なお、社内（内部）で使用した研究費が全て自然科学分野の研究費である場合は、「うち自然科学分野」欄への記入を変えて、「社内使用研究費の全額が自然科学分野の研究費」欄にチェックを付けてください。

	総額	うち自然科学分野
総額		
基礎研究費		
応用研究費		
開発研究費		

社内（内部）使用研究費の全額が自然科学分野の研究費

イ 大学等用:自然科学分野と人文・社会科学のそれぞれで性格別研究費を把握

大学等では、2018年度の研究費総額に占める自然科学分野の割合が65.2%であり、研究費の全てが人文・社会科学分野という客体も存在している。そのため、自然科学分野と人文・社会科学分野のそれぞれの金額を把握する。

【●】性格別研究費

○ 「【●】内部で使用した研究費」について、自然科学分野と人文・社会科学分野の研究費に分類し、それぞれを研究費の性格によって分類して記入してください。分類単位は原則として研究テーマごとに行いますが、それが困難な場合には、研究者又は研究室ごとに分類しても差し支えありません。

	自然科学分野	人文・社会科学分野
総額		
基礎研究費		
応用研究費		
開発研究費		

3 ヒアリングについて

調査票案、「調査票記入上の注意」(本資料2ページ)の説明内容及び人文・社会科学分野における区分例を提示し、回答が可能か否かを尋ねる。(別添参照)

参考

性格別研究費に関するフラスカティ・マニュアルの記載内容、主要国研究費、アメリカの調査票

1 フラスカティ・マニュアルにおける性格別研究費の定義と人文・社会科学分野に関する記載内容(仮訳)

基礎研究	基礎研究とは、主として現象や観察可能な事実の基盤をなしている新たな知識を獲得するために取り組まれる実験的又は理論的な作業であり、何ら特定の応用や利用を考慮にいれない(2.25)
応用研究	応用研究とは、新たな知識を獲得することを目的として取り組まれる独創的探求である。しかし、主として明確な実用的な目的又は目標に向けて行われる。(2.29)
試験的開発 (開発研究)	試験的開発とは、研究及び実際の経験から得られる知識を活用し、付加的な知識を生む体系的作業であり、新しいプロダクト又はプロセスを創出したり、若しくは既存のプロダクト又はプロセスを改善することに向けて行われる。(2.32)

自然科学及び工学において、異なる研究開発類型を区別する方法例(2.40)

- 難解な歴史的事象(国の政治的、社会的、文化的発展、個人の伝記等)をより理解するためのあらゆる種類の資料(原稿、文書、モニュメント、芸術作品、建築物等)における研究は、基礎研究である。教材や博物館のディスプレイに潜在的に関連する相互接続を理解することを目的とした、古代遺跡及び／又はモニュメントの示す類似性及び他の一般的な特性(例えば地理的、建築上の、等)の比較分析は、応用研究である。考古学的な取組み(骨や植物の化石の年代の特定等)を通じて発見された工芸品及び自然物を研究するための新しい器具や方法の開発は、試験的開発である。

社会科学、並びに人文学及び芸術学において研究開発類型を区別する方法例

2.41 社会科学、並びに人文学及び芸術学に関して、その他一連の例も提供可能であるが、上述したように、これらの領域は、境界線の曖昧さが、基礎研究と応用研究との差異に影響しうる。当該領域での試験的開発の例もまた、自然科学や工学での他領域によって果たされる役割のため、同定することが困難であると言える。留意すべきことは、これらの例は、研究開発として考慮されるために、本章で確認した基本的な判断基準を満たさなければならないということである。

● 経済学及び商学において

- ❖ 基礎研究: 経済成長の地域格差の決定要因に関する理論の検討。／自然均衡が、市場経済の中で存在しているかどうかに関心を当てた経済理論の理論的研究を行う経済学者。／新たなリスク理論の開発。
- ❖ 応用研究: 政府政策を発展させることを目的とした特定地域の事例分析。／電気通信スペクトルを競売にかけることに関連する可能性が高い、競売メカニズムの特徴を調査する経済学者。／新たな市場リスク、あるいは新たな種類の貯蓄証券を対象とした新しい保険契約の調査。
- ❖ 試験的開発: 地域が成長面で追いつけることを可能にする経済政策ツールを設計するための、統計的証拠に基づいた運用モデルの開発。／電気通信スペクトルの競売方法に関する、国家電気通信当局による開発。／投資ファンドを管理するための新しい方法の開発は、新規性に関する十分な証拠がある限り、試験的開発である。

● 教育学において:

- ❖ 基礎研究:学習能力における環境的決定要因の分析。／小学1年生時を対象に、操作物を変化させることで数学的な戦略を学習させ、その後標準的なやり方で生徒が学習したことを測定し、異なる具体物がこれら学習に与える影響を調査する研究者。
- ❖ 応用研究:恵まれない地域社会に経験される学習上の格差の縮小を目的とした国の教育プログラムの比較評価。／教師が正常にカリキュラムを実施するために知る必要のあるものは何かを決定する特定の数学カリキュラムの実施に関する研究者による研究。
- ❖ 試験的開発:特別な支援を必要とする子どもたちにとって、どの教育プログラムが活用されるべきかを選択する試験の開発。／特殊学級の生徒における数学的認知を向上させることを目的とした、フィールドワークに基づく、ソフトウェアやサポートツールの開発及び試行(教室での)。

● 社会・経済地理学において

- ❖ 基礎研究:空間の相互作用の基本的な力学を理解しようとする研究者。
- ❖ 応用研究:感染症発生の伝播と拡散における空間的・時間的パターンを分析する調査研究。

● 歴史学において

- ❖ 基礎研究:歴史家は、国の歴史及び氷河決壊洪水の人間への影響を研究する。
- ❖ 応用研究:歴史家は、現代社会が、どのように地球規模の気候変動に対してより良い反応ができるのかを理解するために、過去の社会がとってきた、壊滅的な自然災害(例えば、洪水、干ばつ、疫病)への反応を調べる。
- ❖ 試験的開発:これまでの研究成果を利用して、歴史家は、環境の変化における過去の人間社会の適応について、博物館での新たな展示を設計する。これは他の博物館や教育設備のプロトタイプとして役割を果たす。

● 言語学において

- ❖ 基礎研究:言語学者は、人が互いに接触するように異なる言語がどのように相互作用するかを研究する。
- ❖ 応用研究:スピーチセラピストは、言語を支配する神経と、どのようにして人間は言語能力を獲得するのかを調査する。
- ❖ 試験的開発:言語学者は、子どもの言語習得、保持及び記号の使用に基づいた、自閉症の診断ツールを開発する。

● 音楽学において

- ❖ 基礎研究:研究者は、互いに特定の関係を持つ対象物の収集としてではなく、作品の基本的な材料に応用させる一連の変革操作として音楽事象を理解するためのフレームワークを提供する変革理論を開発する。
- ❖ 応用研究:研究者は、古代の楽器や、長期にわたり消失していた楽器を再現し、これらがいかにして構築、演奏されてきたのか、そしてこれら楽器が出しうる音の種類を究明するために、歴史的な記録と実験考古学の技術を利用する。
- ❖ 試験的開発:音楽教育者及び音楽理論家は、人間がどのようにして新たな音及び情報を処理するのかについて、我々の理解を変える脳神経科学の新たな発見に基づいた、新しい教育的材料を生み出すために活動する。

2 旧マニュアル(2002年版)における性格別研究費の定義と人文・社会科学分野に関する記載内容(仮訳)

基礎研究	<p>240.基礎研究とは、何ら特定の応用や利用を目的とすることなく、現象および観測可能な事実の基礎となっている事柄についての新しい知識の獲得を主眼として行われる実験的、あるいは理論的な活動である。</p> <p>241.基礎研究では、仮説、理論あるいは法則を定式化し、検証するために特性、構造、関係を分析する。基礎研究の定義の中の、いかなる「特定の応用を目的とすることなく」と言葉は非常に重要である。というのも実行者が、研究を行っている時あるいは調査の質問表に回答する時、実際の応用について知らない場合もあるからである。基礎研究の結果は、一般的には売られるものではなく、たいていの場合、科学雑誌に発表されたり、関心のある研究仲間に配布されたりするものである。時には、基礎研究は、安全保障上の理由から「秘密扱い」とされる場合もある。</p>
応用研究	<p>245.応用研究もまた、新知識を獲得するために行われる独自の研究である。しかしながら、それは第一義的に特定の実際的な目標ないし目的を目指して行われる。</p> <p>246.応用研究は、基礎研究の成果の可能的用途を決定するためか、あるいは特定の予め定められた目的を達成する新しい方法や方式を決定するために行われる。この研究は、特定の問題を解決するため、利用可能な知識とその延長の吟味を必要とする。企業部門においては、基礎研究と応用研究の区別は、基礎研究プログラムの有望な成果を探るための新プロジェクトの創設によってしばしば見分けられる。</p> <p>247.応用研究の結果は、何よりも先ず、一つのあるいは限られた数の製品、操作、方法、システムにとって有効であることを求められている。応用研究は、アイデアに対して操作可能な形式を与えるものである。そこから引き出される知識や情報は、しばしば特許の対象とされるが、秘密にしておかれる場合もある。</p>
試験的開発 (開発研究)	<p>249.試験的開発は、研究や実際上の経験から得られた知識に基づく系統的な活動であり、新しい材料や製品、装置の生産、新しい工程やシステム、サービスの導入、あるいはすでに生産ないし導入されているものの実質的な改善を目指すものである。</p> <p>250.社会科学においては、試験的開発は、研究を通じて得られた知識を、<u>運用プログラムに変換するプロセスとして定義することができます。このプログラムには、試験および評価のために行われる実証プロジェクトを含みます。</u>人文科学に関しては、このカテゴリーはほとんど、あるいはまったく意味がない。</p>

254. 社会科学および人文科学における例:

- 経済成長の地域的変動を決定する要因に関する理論的研究は、基礎研究である。しかし、政策を開発するためのそうした研究は、応用研究である。研究を通じて明らかにされた法則に基づき、地域格差の是正を目的とした作業モデルの開発は、試験的開発である。
- 学習能力の環境的決定要因の分析は、基礎研究である。環境上のハンディキャップを補うことを目的とした教育プログラムの評価のために、学習能力の環境的決定要因を分析することは、応用研究である。特定のクラスの子供たちにどの教育プログラムを使用すべきかを決定する手段を開発することは、試験的開発である。
- 新しいリスク理論の開発は、基礎研究である。新しい市場リスクをカバーする新タイプの保険契約の研究は、応用研究である。新タイプの貯蓄商品の研究は、応用研究である。投資資金を運用する新方法の開発は、試験的開発である。
- これまで知られていない言語について、その構造と文法を確立する研究は、基礎研究である。ある言語の発展に対する地理的あるいは社会的な変数の影響を確定するために、言語使用の地域的、その他の変動を分析することは応用研究である。人文科学の場合、試験的開発の有意味な例は見出されていない。

表 4.2. 社会科学および人文科学における研究の3タイプ

基礎研究	応用研究	試験的開発
経済的条件と社会開発の因果関係に関する研究	農業を支援し、工業地域における社会的衝突を防止するため、農業労働者の農村から都会への流入の拡大を止めるプログラムを作成する目的で、この流入の経済的・社会的原因を研究すること	農村から大都市への人口移動を防ぐための財政支援プログラムを開発し、検査すること
ある社会の社会構造および社会・職業移動の研究、すなわち社会・職業の層、社会階層などにおける構成と変化の研究	社会的移動の最近の傾向から将来的な結果を予想するために入手されたデータを使ってモデルを開発すること	一定の社会集団および人種集団の上方への移動を促進するプログラムの開発と検査
過去および現在のさまざまな文明における家族の役割に関する研究	現在の特定の国あるいは特定の地域における家族について、関連の社会的措置を用意する目的で、その役割と現状を研究すること	低所得の労働者グループにおける家族構造を維持するプログラムの開発と検査
成人および子供における読取り(リーディング)プロセスの研究、つまり単語や絵、図表などの象徴から情報を得るために、いかに人の視覚システムが働いているかの研究	子供や成人に読み方を教える新方法を開発する目的で、読取りプロセスを研究すること	移民の子供たちのための特別のリーディング・プログラムを開発し、検査すること
国内の経済成長に影響する国際的要因の研究	政府の対外貿易政策の変更に関する作業モデルを定式化する目的で、一定の時期におけるある国の経済成長を決定している特定の国際的要因を研究すること	—
構文規則、意味論、分節音素論、音韻体系、地域的あるいは社会的な変動など、特定の言語(あるいは相互に比較する複数の言語)の特定の側面に関する研究	ある言語のさまざまな側面について、その言語の新しい教授法あるいはその言語から、またはその言語への翻訳の方法を考案する目的で研究すること	—
ある言語の歴史的発達の研究	—	—
歴史的現象(ある国の政治的、社会的、文化的発展、ある個人の歴史など)をより良く理解するためのあらゆる種類の資料(手書き原稿、記録、記念碑、芸術作品、建物など)の研究	—	—

資料:ユネスコ(1984b)、「科学技術活動に関する統計マニュアル」

3 主要国の性格別研究費比率

	研究費 (百万ドル)	構成比(%)			年次等
		基礎研究	応用研究	開発研究	
カナダ	15,515	3.9	11.3	84.8	2017年、企業のみ
フランス	66,045	22.7	41.9	35.4	2017年(暫定値)
ドイツ	92,885	6.4	45.5	48.1	2017年、企業のみ
イタリア	34,658	22.2	42.1	35.7	2017年
日本	164,166	13.1	19.8	67.1	2018年度 注1
イギリス	48,106	18.1	44.0	37.9	2016年(推計値)
アメリカ	579,985	16.6	19.8	63.5	2018年(推計値) 注2
中国	554,328	5.5	11.1	83.3	2018年
韓国	98,451	14.2	22.0	63.8	2018年
ロシア	36,114	15.2	20.7	64.1	2016年 注2

注1) 自然科学分野のみ

注2) 基礎・応用・開発研究に区分されない「資本的支出」を除く

4 アメリカの調査における記載例

(1) 定義

HERDS: HIGHER EDUCATION RESEARCH AND DEVELOPMENT SURVEY(2019 FY)より

基礎研究	主に現象や観測可能な事実の根底にある基礎に関する新しい知識を獲得するために行われる実験的または理論的な作業であり、特定の用途や使用法はありません。
応用研究	新しい知識を得るために行われる独自の調査です。それは主に特定の、実用的な目的または目的に向けられています。
試験的開発 (開発研究)	体系的な作業であり、研究および実際の経験から得られた知識を利用し、新しい製品またはプロセスの生産または既存の製品またはプロセスの改善に向けられた追加の知識を生み出します。

- **Basic research** is experimental or theoretical work undertaken primarily to acquire new knowledge of the underlying foundations of phenomena and observable facts, without any particular application or use in view.
- **Applied research** is original investigation undertaken in order to acquire new knowledge. It is directed primarily towards a specific, practical aim or objective.
- **Experimental development** is systematic work, drawing on knowledge gained from research and practical experience and producing additional knowledge, which is directed to producing new products or processes or to improving existing products or processes.

(2) 区分別

・BRDIS: Business R&D and Innovation Survey(2016FY)より

燃料電池の効率に対するさまざまな材料の影響を調査することを目的とするプロジェクトは、基礎研究として分類されます。新しい材料を使用して燃料電池の効率を改善することを目的とするプロジェクトは、応用研究として分類されます。

・HERDS: HIGHER EDUCATION RESEARCH AND DEVELOPMENT SURVEY(2019 FY)より

基礎研究	応用研究	試験的開発(開発研究)
研究者は、人間の血液の特性を研究して、何が凝固に影響するかを調べています。	研究者は、新しい水痘ワクチンが血液凝固にどのように影響するかに関する研究を行っています。	研究者は、幼児のために新しく開発された水痘ワクチンをテストするために臨床試験を行っています。
研究者は、さまざまな高温および低温条件下での分子の特性を研究しています。	研究者は、高速道路舗装用のより長持ちするコンポーネントを見つけることを目的として、さまざまな高温および低温条件下で特定の物質の特性を調査しています。	研究者は州交通当局と協力して、さまざまなタイプの熱および寒冷条件下で、新しく開発された高速道路舗装の試験を実施しています。
研究者は、1年生が操作を変更して数学的な戦略を学習する方法に対するさまざまな種類の操作の影響を調査しており、標準化された機器を通じて学生が学んだことを測定しています。	研究者は、特定の数学カリキュラムの実装を調査して、カリキュラムを正常に実装するために教師が知る必要のあるものを決定しています。	研究者は、フィールドワークに基づいてソフトウェアとサポートツールを開発およびテストし、学生の特殊教育のための数学の認識力を向上させています。

Examples		
Basic research	Applied research	Experimental development
A researcher is studying the properties of human blood to determine what affects coagulation.	A researcher is conducting research on how a new chicken pox vaccine affects blood coagulation.	A researcher is conducting clinical trials to test a newly developed chicken pox vaccine for young children.
A researcher is studying the properties of molecules under various heat and cold conditions.	A researcher is investigating the properties of particular substances under various heat and cold conditions with the objective of finding longer-lasting components for highway pavement.	A researcher is working with state transportation officials to conduct tests of a newly developed highway pavement under various types of heat and cold conditions.
A researcher is investigating the effect of different types of manipulatives on the way first graders learn mathematical strategy by changing manipulatives and then measuring what students have learned through standardized instruments.	A researcher is studying the implementation of a specific math curriculum to determine what teachers needed to know to implement the curriculum successfully.	A researcher is developing and testing software and support tools, based on fieldwork, to improve mathematics cognition for student special education.

性格別研究費の把握方法の変更に関する客体ヒアリングについて

内部使用研究費の全てが人文・社会科学分野である客体及び人文・社会科学分野と自然科学分野の双方がある客体にヒアリングを行う。

【大学等用】

問1 性格（基礎・応用・開発）別研究費については、これまで自然科学分野に限定して回答をお願いしておりましたが、国際比較可能性を向上させるため、人文・社会科学分野における性格別研究費の把握も求められています。

つきましては、下記の調査票案に変更した場合、人文・社会科学分野への回答が可能かお聞かせください。

なお、基礎・応用・開発研究費の定義については、下記説明及び別紙の区分例もご覧ください。

【●】性格別研究費

- 「【●】内部で使用した研究費」について、自然科学分野と人文・社会科学分野の研究費に分類し、それぞれを研究費の性格によって分類して記入してください。分類単位は原則として研究テーマごとに行いますが、それが困難な場合には、研究者又は研究室ごとに分類しても差し支えありません。

	自然科学分野	人文・社会科学分野
総額		
基礎研究費		
応用研究費		
開発研究費		

[説明]

基礎研究とは、自然界及び人類社会に存在する科学的な事実(理論、法則、物質、属性、性質、現象など)を発見・立証する研究です。その研究成果は「もとから存在するもの」なので、通常は研究成果の排他的な利用権を主張することはできません(研究成果を他者に公開することは拒否できても、他者が自らそれを発見し、利用することを妨げることはできません。)。そのため、基礎研究の成果は一般に学術論文の形で発表されます。

応用研究とは、知られている科学的な事実(この場合は経験則を含む。)を、目的とする用途の役に立つかどうか調べる研究、あるいは既に何かに利用されているものを、別の用途に役立てられないか調べる研究です。「役立つように工夫する」ことも応用研究です。「科学的事実の利用方法」についての研究なので、その成果には一般に排他的な利用権(特許など)が認められません。

開発研究とは、目的の用途に利用できることが確認できた科学的な事実を活用し、付加的な知識を創出して、実社会で実際に利用可能な形(製品、サービス、システム、装置、材料、工程、薬品など)にする研究です。実社会で利用するために、社会的規制の必要から行われる研究(品質、安全性や経済性の確保など)も含まれます。

人文・社会科学分野においては、研究を通じて得られた知識を活用し、社会的要請に応えるための形(運用モデルやプログラム、試験及び評価のために行われる実証プロジェクトなど)にする研究が該当します。

【回答選択肢】

- ア 回答は可能 → 問2へお進みください
イ 回答は困難 → 更問へ

更問 「イ 回答は困難」とした理由をお聞かせください（複数回答）。

ア 人文・社会科学分野において、基礎・応用・開発の区分ができない

イ 自然科学と人文・社会科学での区分ができない（文理融合テーマが多いなど）

ウ その他（以下に理由をお聞かせください）

--

問2 人文・社会科学分野において、どのような研究をしていますか。差し支えない範囲で、主な研究テーマなどの概要をお聞かせください。

--

【企業、非営利団体・公的機関用】

問1 性格（基礎・応用・開発）別研究費については、これまで自然科学分野に限定して回答をお願いしていましたが、国際比較可能性を向上させるため、人文・社会科学分野も含めた性格別研究費の把握も求められています。

つきましては、下記の調査票案に変更した場合、「総額」への回答が可能かお聞かせください。

なお、基礎・応用・開発研究費の定義については、下記説明及び別紙の区分例もご覧ください。

○ 「【●】社内（内部）で使用した研究費」について、研究費の「総額」及び「うち自然科学分野」の研究費を、それぞれの性格によって分類して記入してください。分類単位は原則として研究テーマごとに行いますが、それが困難な場合には、研究者又は研究室ごとに分類しても差し支えありません。

なお、社内（内部）で使用した研究費が全て自然科学分野の研究費である場合は、「うち自然科学分野」欄への記入に変えて、「社内使用研究費の全額が自然科学分野の研究費」欄にチェックを付けてください。

	総額	うち自然科学分野
総額		
基礎研究費		
応用研究費		
開発研究費		

社内（内部）使用研究費の全額が自然科学分野の研究費

（説明文、回答選択肢、更問及び問2は大学等と同じ）

別紙

学問分野別の区分例

経済学 ※FM ベース	
基礎研究	経済成長の地域格差の決定要因に関する理論の検討。
応用研究	経済成長に関する地域格差是正のための特定地域の事例分析。
開発研究	地域の経済成長を目的とした経済政策ツールを設計するための、統計的証拠に基づいた運用モデルの開発。

教育学 ※FM ベース	
基礎研究	学習能力における環境的決定要因の分析。
応用研究	学習上の格差の縮小を目的とした教育プログラムの比較評価。
開発研究	特別な支援を必要とする子どもたちへの教育プログラムを選択するための、試験的プログラムの開発。

社会学 ※経済学の区分例の応用	
基礎研究	日本における子どもの貧困(教育格差、健康格差、栄養状況など)に関するデータ収集、分析を行う。
応用研究	(政策提案を見据えて)諸外国の貧困状況、政策と社会の反応について調べ、日本の状況と比較する。
開発研究	子どもの貧困問題に関する提言を策定する。

歴史学 ※FM ベース	
基礎研究	地域における過去の自然災害について、文献やフィールドワークで調べる。
応用研究	現代社会への示唆のため、過去の自然災害と当時の地域社会の対応を調べる。
開発研究	これまでの研究成果を利用して、過去の環境変化への地域社会の対応に関する新たな展示プログラムを設計する。

言語学 ※FM ベース	
基礎研究	ある言語についての歴史的及び地域的又は社会的な変異について調べる。
応用研究	言葉を発したり理解するときの脳の働きを解明する。(文理融合型研究) ※東北大学大学院文学研究科・文学部、附属言語脳認知総合科学研究センターHP を参考
開発研究	(言語学としては、想定されません)